

JAWRO企画講演の座長を務めて

順天堂大学医学部附属浦安病院放射線科

齋藤アンネ優子

4月11日～14日にて横浜で日本医学放射線学会第78回学術総会が開催されました。

この学会場において、4月13日にJAWRO企画講演会が開催されました。この講演会の座長を務めさせていただきましたので、ご報告をさせていただきます。

今回の企画講演は、日米の放射線治療医のリーダーシップをテーマとし、両国の指導的立場にいる女性放射線治療医のインタビューをまとめた質的研究の筆者の一人である、Michigan大学のChristina Chapman先生にご講演をいただきました。また、基調講演のあとは、様々なお立場の日米の放射線治療医の先生を壇上にお招きし、同時通訳を利用した総合討論を行いました。

Christina Chapman先生は、もともとは、採血により癌の診断などを行う、circulating tumor cellの研究をなされていた先生です。しかし、高額な最新医療が受けられない患者さんが多く存在する実情を知り、患者の医療の給付の不平等性を明らかにする研究、それがさらに高じて、医療職の労働現場における不平等性の研究に従事しておられます。ご講演は、リーダーシップの定義から始まり、リーダーシップ、特に女性のリーダーシップについての、米国、日本などの現状を、先に行われた日米の指導的立場にいる女性放射線治療医の実際のインタビュー内容をくわえて、わかりやく解説したものでした。日常的に感じていたことでも、データとして示されると、理解が整理され、それと同時に、米国で、不平等を証明、撤廃するために様々な研究やデータ解析がなされているのには、驚かされました。

総合討論には、Christina Chapman先生以外に、MDアンダーソンがんセンター客員教授のRitsuko Komaki先生、名古屋大学の川村麻里子先生、北海道大野記念病院、札幌高機能放射線治療センターの岸和史先生、東京女子医大の唐澤久美子先生、三重大学の豊増泰先生（座席順）がご参加されました。性別、年齢、勤務している施設のタイプなど、多岐にわたるお立場の先生方に、討論していただきました。それぞれのご経験、お立場から、たくさんの貴重なご意見を拝聴することができました。熱い討論は、ご参加された聴衆の先生方の心にも響き、今後の医療現場におけるリーダーシップなどを考える様々なきっかけやヒントになったものと思われ、非常に有意義なものでした。時間が限られていたため、議論ができなかったテーマがあったことが残念で、総合討論の討論者の労を引き受けてくださった先生方には深謝いたしますとともに、このような講演会を開催させていただき、私を座長に指名していただいたJAWROに感謝申し上げます。

さらに今後ともこのような学術的で我々の励みにもなる講演会が開催されますことを希望いたします。